

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502801		
法人名	メディカル・ケア・サービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌川沿		
所在地	北海道札幌市南区川沿4条3丁目5-37		
自己評価作成日	平成28年1月5日	評価結果市町村受理日	平成28年2月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502801-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502801-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 1 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族様との関係作りを大切にしており、行事への参加も多くコミュニケーションを多く取っています。</li> <li>・ご家族様のケアカンファレンスの参加が定着しており、ご利用者様も含め日々の暮らし、生活について話し合い共に協力し、ご利用者様を支えています。</li> <li>・介護スタッフだけではなく、事務、看護師などの専門職も在沖しています。</li> <li>・地域との関わりを積極的に行い、秋祭りには多くの地域の方々、特に子供さん達の参加が多く恒例行事となっております。また毎週月曜日には地区センターでのふれあいサロンに参加しています。</li> <li>・児童会館に遊びに行ったり、子供さん達がホームに遊びにきてくれたりと児童館との交流も深めています。</li> <li>・往診医療機関との信頼関係の構築に努めています。</li> <li>・ホーム内研修、外部研修を実施し色々な分野での研修を行いスキルアップに努めています。</li> <li>・1年に1回事例研究発表会を行いケアの質の向上に努めています。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>札幌市郊外の住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームです。徒歩圏にバス停やドラッグストア、公園などがあり、大型スーパー、レストランなども近くにあり。共用空間を中心に居室が配置され、台所が広く、事務室や職員の休憩室も確保されています。廊下の突き当たりに出窓のある休憩スペースがあり、外を眺めて寛ぐことができます。浴室やトイレも使いやすく造られています。職員同士のコミュニケーションが良好で、職員は安定して継続勤務しています。1階と2階の利用者同士の交流も多く、日常的に利用者が歌を歌い、地域のふれあいサロンに参加して楽しんでおり、買い物や洗濯にも参加しています。また、ホームの秋祭りで地域の方と交流し、児童会館との交流もあります。運営法人が全国にグループホームを展開しており、研修やマニュアル、契約書類、記録様式などが整っています。家族との関係では、定期的にアンケートを実施し、介護計画更新のカンファレンスに家族も参加していただき、意見を得ています。ケアマネジメントの面では、センター方式のアセスメントシートが整備され、介護計画の更新も全職員の意見を集約しています。看取り支援の面では、家族や医療機関と協力しながら看取りを行う方針とし、経験を積んでいます。</p>
---

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼では会社・ホーム・ユニットの理念を唱和しています。実践としては、地域のふれあいサロンへの参加や、近所のスーパーへの買い物を行っています。また、秋祭りの際は町内にチラシを配り近所の方にも来ていただいています。	ホーム独自の理念の中に「地域の人々との交流を図り」という文言を入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念としています。法人の理念、ホームの理念、ユニット目標を事務所や共用部分に掲示し、毎日唱和して共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあいサロンは週に1回あり、また食材の買い物は3日に1度あります。入居者様に毎回参加して頂き、地域との交流を行っています。	ホームの秋祭りに地域の方60~70人が参加しています。また、地区センターで週1回行われる「ふれあいサロン」に各ユニットから2~3名の利用者が参加しています。地域の児童館とも交流する機会を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の回覧により、会社作成の介護新聞を掲載させて頂く事があります。また、地域の方に認知症の事を知って頂けるように認知症サポーター養成講座を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームのケアや行事などの取組みについて報告を行っています。地域包括支援センターの方や、ご家族様に参加して頂き、そこで出た要望・意見などをユニットに周知して活用しています。	会議は2ヶ月毎に開催され、地域包括支援センター職員、利用者家族、ホーム職員が参加していますが、地域の方の参加は得られていません。防災や事故報告、家族アンケート、防犯などをテーマで話し合っています。議事録を家族に送付しています。	運営推進会議に町内会役員や民生委員の方、または地域の有識者などの参加が得られるよう、継続的に働きかけを行うことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域のケア連絡会や市が主催する研修などに参加し、レポートを作成することで参加できなかったスタッフにも情報がいくよう取り組んでいます。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得て情報提供を受けるほか、市や区の管理者会議、ケア連絡会などでも行政担当者と情報交換しています。認知症サポーター養成講座の開催にも協力しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についてホーム内研修のテーマとして揚げ、スタッフ全員が理解できるよう取り組んでいる。玄関は日中は開けており、誰でも出入りできるように取り組んでいる。	身体拘束を行っておらず、マニュアルや禁止事項が記された研修資料を用意し、年1回は内部研修を行っています。玄関は日中は施錠せず、自由に出入りが出来ます。ユニットから玄関ホールへ通る際は鈴が鳴り、分かるようにしています。外出希望があれば、職員が同行しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてのホーム内研修を定期的に行い、ユニット会議などで話し合っています。虐待を発見した際の対処や具体例についてスタッフ間で情報共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やスタッフは日常生活自立支援事業や成年後見制度について外部研修に参加したり、スキルアップを図れるような体制をとっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に何度でも見学に来て頂いたり、説明を行っています。入居前にアセスメントを行い、利用者、家族等の不安や疑問点を解消できるように配慮しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	否定的な意見は言いにくいと思ひ、日々の面会時にお聞きしたり、家族アンケート(無記名)の実地、またいつでも意見が書けるよう投書箱を設置しています。また結果はユニット会議にて周知しています。	運営推進会議やケアカンファレンスに家族が参加する際に意見を聞くほか、年1回、家族アンケートを行っています。意見は「連絡帳」で共有しており、個別に家族と交換日誌を作っている職員もいます。毎月の「ほのぼの通信」と利用者毎のお便りを作成し、家族に提供しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に意見を聞いたり、ユニット会議において意見交換をしております。また年に1回職員アンケートを実地しております。	月1回のユニット会議と毎日のミニカンファレンスで情報共有と意見交換を行っています。年に1~2回、管理者が職員と面談しています。職員は本社の部長やマネージャーとも相談できます。また、職員はサービス向上や児童交流、畑づくりなどの委員会に所属し、運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人手不足が続き職場環境の悪化もあるが、ホーム全体で個々のスタッフの仕事量が過多にならないように助け合っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ユニット会議の際にホーム内研修を行い、また外部研修、新人スタッフのステップアップ研修を行い、研修の割引等を提示しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	各ホームとの研修会や、夏祭りなどの行事、期末会、飲み会なども企画し、職員同士の交流の機会を設けています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、家族を含めたアセスメントを行っています。ホームでの生活が円滑に進むように、ご本人の状態を把握し、要望をお聞きしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の見学や、契約の際に、ホームでの生活について時間をかけて説明し、要望をお聞きしています。何度でも見学等に来ていただく事で、不安なくホーム生活でのが始められるように支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人との事前アセスメント時や、見学等でご家族の話を行った際に、他のサービスの利用を含めた対応をするように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の洗い物や掃除、縫い物など多種に渡る事に置いてご本人に見合った活動をして頂き、共に生活をしている、支え合っているという気持ちを持って頂けるように支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の出来事を毎月ご家族へ送付しています。面会や外出、外泊などは基本的に自由にして頂き、また、行事にも数多く参加して頂く事で、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで築いてきた関係を維持できるよう、ご家族や知人の方には自由に面会にきて頂き、また夢を叶えよう等の行事を通して、ご本人の馴染みの場所へ行けるように支援しております。	2～3名の利用者の友人が来訪しています。また、福祉施設に入居する友人に会いに出かける利用者もおり、送迎しています。個々の希望に沿って、喫茶店や寿司店、芸術の森などへの外出も支援しています。また、週1回のふれあいサロンもすでに馴染みの場所になっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の流動的な関係を随時把握し、ユニット会議の議題にあげたり、日々スタッフ同士で話し合い、一人ひとりが孤立せずに関わり合えるように支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもご家族から相談の電話等があれば対応し、これまでの関係を変えることなく経過をフォローするように努めています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、その時々で変わるご本人の希望、意向をくみ取れるように開かれた質問をしたり、確認を行っています。また面会時、カンファレンス時にご家族からご本人についての情報を得るように努めています。	言葉で思いや意向を表出できる利用者は少ないですが、日々の関わりの中から思いや意向を聞きだし、家族の情報も得て把握するよう努めています。センター方式のアセスメントシートを定期的きめ細かく整備し、情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から馴染みの生活について情報をいただいています。また、センター方式の用紙に記入して全スタッフが共有・更新できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用して、全スタッフが身心の具体的な情報の共有・更新ができるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日ミニカンファレンスとしてスタッフ間でご入居者様についての意見を話し合っています。また3か月に1度、ご本人、ご家族、スタッフにてカンファレンスを行い、それぞれの意見を反映したうえで介護計画を作成しています。	介護計画を3か月毎に更新しています。職員全員が評価表を作成し、意見を集約しており、更新時のカンファレンスには家族も参加しています。日々の記録は、介護計画に沿ってプラン番号を記入しながらケアの目標を意識した記録を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者様の言葉、表情、事実をそのまま記録に書き、スタッフ間で情報共有しています。見直して活かす事については今後より一層行っていく必要があると感じます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基会所への送迎や、ご本人やご家族の状況に応じて、通院・救急対応を行っています。またご入居者様の葬儀に参列するなど柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に囲碁のボランティアに来ていただいたり、地区センターのレクリエーションに参加、買い物や外出などでも地域の資源を活用させていただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診の他、利用前からのかかりつけの病院への受診を受けられるよう、ご家族と共に支援しています。また日々変化があった場合は電話にて往診先と連絡を取り合っています。	協力医による月2回の往診があり、その他の通院は基本的に家族が対応していますが、緊急時などはホームで通院を支援しています。受診内容を個人毎の「特記記録」に記載し、把握しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が勤務しており、日常の健康管理、体調の変化について情報を共有し、対応いただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを記入し、ご本人の状態や経過を医療機関に提供しています。またスタッフが お見舞いにいたり、ご家族と連絡を取り合う事で入院の経過について情報を共有し、退院後の生活の継続がスムーズに行くよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の確認書を作成しており、入居時に話し合いの場を設けています。また、カンファレンス等の中でも看取りケアを含めてご本人やご家族の終末期の意向を早い段階からお聞きし、実際に看取りケアも行っています。	利用開始時に「重度化した場合の対応にかかる指針」を説明し、同意書を得ています。医療行為を行わない範囲で、家族や医療機関と協力しながら看取りを行う方針としており、昨年も看取りを経験しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルをリビングに置いており、また急変時に対応できるように誤嚥時の対応などホーム内で研修を行っています。救急救命講習も全スタッフに順次受けて頂いております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て、年に数回昼夜の火災を想定した避難訓練を行っています。全入居者の避難や、消火器の実践を行っています。	年2回、消防の協力のもと昼夜を想定した避難訓練を実施していますが、地域の方の参加は得られていません。全職員が定期的に救急救命訓練の受講を行っており、水や食料など災害時に必要な備蓄品も用意しています。	避難訓練における地域の参加や協力について、町内会関係者の他に、近隣のグループホームや福祉施設、近くに住む職員や利用者の家族、商店など幅広く呼びかけを行うことを期待します。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時はカーテンも使用し、車椅子の方の介助の際も、プライバシーを確保できるよう努めております。また、着替えは居室など衆目に置かれぬ場で行い、ご本人のペースに合わせて介助を行っています。	利用者への呼びかけは苗字や名前に「さん」づけとしており、入社時研修や内部研修で接遇やプライバシー保護、倫理などを学んでいます。ファイル類は事務所で適切に管理し、申し送りの際に部屋番号を使うなどの配慮もしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いを表現できるように、ご本人に合わせて質問の仕方を変えています。食べたいものはあるか、何を飲みたいか、どこか行きたいところはあるか、など日頃からコミュニケーションの中でお聞きしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日その時の状況に合わせて日々過ごして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容の他、衣服の確認をしたり、化粧をしませんかと声をおかけしたりと、身だしなみが整えられるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を刻む、一部調理をする、盛り付けを行う、皿を洗う、皿を拭くなどの各工程において、一人ひとりの力を活かして頂き、食事が楽しみなものになるよう支援しています。	本社による献立をもとにホームで食材を用意しており、買い物に利用者も同行しています。利用者の一部は下ごしらえや盛り付け、食器洗い、食器拭きなどを手伝っています。誕生日に好みのものを提供したり、クリスマスなどには行事食を用意しています。職員も同じ食事を取っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食事形態を変え、朝はパンを用意するなど行っています。また水分も好みのものを用意するなど、栄養や水分を確保できるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後口腔ケアの声かけ、見守りを行っています。また必要に応じて歯科の往診に来て頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チャート表を活用する事で、その人に合わせたタイミングで声かけ、介助を行っています。またリハビリパンツやオムツを安易に使用せず、布パンツにするにはどうすれば良いかユニット会議等で話し合っています。	3分の1ほどの利用者は自力でトイレに行くことができ、誘導が必要な利用者には、羞恥心に配慮してジェスチャーや小声で誘導しています。日中は全員がトイレで排泄できるように支援し、夜間は状況に合わせて居室でパッド交換等を行う場合もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳など乳製品を提供しています。また、水分補給を声かけ、運動を行う事で、スムーズな排便に至るよう取り組んでいます。便秘時は往診医やユニット内で相談し、負担にならないよう早めに対応しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて入浴できるよう支援しています。入浴がお好きではない、難しい方に対してはユニット内で対応を考え、清潔を保てるよう支援を行っています。	毎日、午前午後とも入浴することが可能で、各利用者が週2回程度入浴できるよう支援しています。入浴を拒む利用者は翌日にずらしたり誘う職員を変えています。入浴時は歌を歌ったり、職員との会話を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動して頂く事で生活のリズムを整え、ご本人に合わせた時間で安心して眠って頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情をまとめ、リビングにて管理することでユニットのスタッフが薬の目的や副作用を理解できるようにしています。下剤などに関して、往診先と相談し、ご本人の状況に合わせて量を調整しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴やご本人、ご家族のお話しの中から役割や楽しみを見出し、日々提供するよう努めています。ドライブ、買い物、外出レクなど、外に出る機会も提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夢を叶えようという企画でご本人の希望される場所へスタッフと1:1で外出したり、日常の買い物、ドライブ、全体外出、地域のお祭り、ふれあいサロン等、普段から外出して頂けるよう支援しています。	暖かい時期は日常的にホーム周辺の住宅地を車いすの方も一緒に散歩しています。週1回、ふれあいサロンに通う方も多くおり、買い物や畑の手入れで外出する機会もあります。年間行事では真駒内公園での花見や、おたる水族館、円山動物園、洞爺湖などに出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て、外出時等にお金を使用して頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、ご家族から電話を受けたり、かけたりできるよう支援しています。年賀状に一言書いて頂いたり、手紙についても同様に支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてホーム内を飾りつけてます。利用者様が製作したものや行事の写真、好まれる歌の歌詞などを貼り付ける事で、また皆様楽しまれています。冬季は加湿器等いいを使用し、温度・湿度の調整を行っています。	共用空間には利用者の写真や習字、塗り絵などの作品、大きく書いた歌詞などが飾られ、楽しい雰囲気となっています。家庭的な調度品も置かれています。居間や食堂、廊下の出窓から明るい光が差し込み、温度や湿度も調整されています。トイレや浴室も使いやすく整備されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の他、リビング、出窓のベンチ、事務所前のソファなど、空間を複数作る事で気分を変えたり、落ち着けるように工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がこれまで使用してきた家具や品物を持ってきて頂いています。また安全面を考慮し、その人らしい部屋になるようご本人やご家族と相談しながら工夫しています。	居室には備え付けのキャビネットの他、テレビやベッド、椅子、時計、仏壇など馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。利用者や家族の写真、職員からの寄せ書きなども自由に飾っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な個所には衝撃緩和素材を貼り、物を整理するなど安全面に配慮しています。1、2階スタッフが協力して声を掛け合い、ご利用者の状況を把握できるように努めています。		